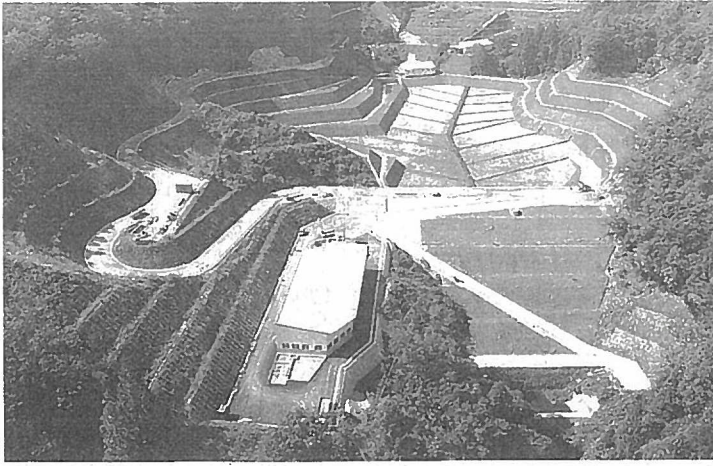


キヨスミ産研

鬼ヶ沢最終処分場

12月中旬第3期稼働へ



稼働に向け準備を進めている(キヨスミ産研)

ATグループで廃棄物の焼却事業や最終処分場の運営を行うキヨスミ産研(山形市、堀切勇真社長)は、運営する

ATグループは、関東圏で廃棄物の収集運搬事業を行うアドバンテイク・レヒュース、神奈川県で多様な廃棄物の処理・リサイクルを行う三協興産などか

らなり、人を大切にす

る社風が知られている。

鬼ヶ沢最終処分場

(増設後)は面積5万

3812平方メートル(新設

2万5826平方メートル)

で、74万6638立方

メートル(新設分36万802

立方メートル)となり、一

日あたり140立方メートル

の浸出水を処理する。計

画では、年間埋立量を

1万7500立方メートル

としており、計画的に20

年間使用する予定とな

っている。現在は第2

期の残容量を見ながら第3期の稼働に向け準備を進めている。

また第3期では有機

性廃棄物の埋立は極力

行わず、特に中間処理

(焼却)後の燃え殻の受

け入れに力を入れる。

また特に近年異常気象

により急激に増加する

浸出水の抑制を考慮

し、場内の雨水および

融雪が引き物と接触し

ないようシートで区画

集水し、雨水側溝から

施設外に排出するシス

テムを採用している。

また県外枠として年

間埋立量2割規制を遵

守しながら数量は柔軟

に対応し、新規顧客の

開拓を進める。また、

特に計画埋立量が予測

しやすいことから中間

処理業者への営業に力

を入れている。現在コロナ

ウイルス禍の中、感染

防止対策を行いながら

営業を続けている。

埋立許可品目は▽燃

え殻▽汚泥▽廃プラスチック類▽紙くず▽木

くず▽繊維くず▽動植物性残渣▽動物系固形

不要物▽ゴムくず▽金

属くず▽ガラスくず等

▽鉱さい▽がれき類▽

ばいじん▽13号廃棄物

▽廃石綿等——となる。